

洪水浸水想定区域図 作成の考え方

国又は都道府県は、洪水予報河川または水位周知河川について、想定し得る最大規模の降雨により当該河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域を「洪水浸水想定区域」に指定し（大臣又は知事が指定）、浸水が想定される区域、水深を示した洪水浸水想定区域図を公表します。

堤防はどの地点で決壊するか分からないことから、複数の堤防決壊地点を想定して氾濫計算を行い、各地点で決壊した場合の計算結果を重ねあわせて洪水浸水想定区域図を作成します。

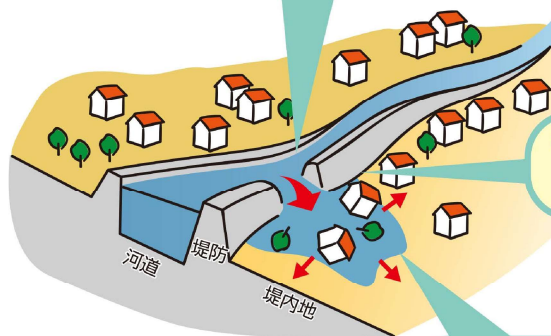
洪水浸水想定区域指定までの流れ

- ① 想定最大規模の降雨を設定 (491mm/72 時間)
- ② 想定氾濫箇所を確認
- ③ 氾濫流量の算定
- ④ 洪水浸水想定（水害リスク情報）

① 想定する雨の量を決定する。



② 流れ出た水に対して、川があふれる恐れがある箇所を確認する。
(流下能力等に基づく危険箇所)
複数の決壊箇所を想定します。



③ 降雨により、どの程度の水が流れ出るかを計算。

④ 想定氾濫地点で破堤し、水が流れだしたときに、どの範囲までどのくらいの深さまで浸水するかシミュレーション。

- ・ 浸水範囲
- ・ 最大浸水深
- ・ 家屋倒壊等氾濫想定区域



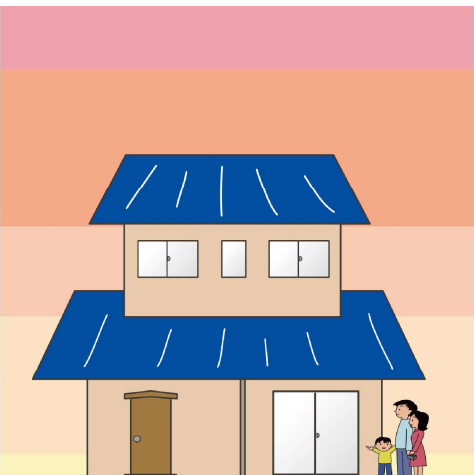
新たな浸水深の配色・目安

浸水が想定される区域については、住民のみならず旅行者や通勤・通学者がどこにいても水害リスクを認識し、避難行動を検討できるようにするため、各市町村間で統一しています。

一般的な家屋の2階が水没する5m、2階床下に相当する3m、1階床下に相当する0.5mに加え、これを上回る浸水深を表現するため、10m、20mを用いることが標準とされています。

ただし、建物や土地の状況により浸水による被害は異なります。

浸水深ランクの目安

家屋イメージ		浸水深と目安	
	20m	10 ～ 20m	5 ～ 7 階が浸水する程度
	10m		
	5m	5 ～ 10m	3 階の全てが浸水する程度
	3m	3 ～ 5m	2 階の全てが浸水する程度
	0.5m	0.5 ～ 3m	1 階の全てが浸水する程度
		～ 0.5m	大人の膝まで浸水する程度

本冊子の地図では、右の凡例で浸水深を表現しています。



我が家はどこに当てはまるか見てみよう。

地図凡例

浸水した場合に予想される水深
0.0～0.5m未満
0.5～3.0m未満
3.0～5.0m未満
5.0～10.0m未満
10.0～20.0m未満
家屋倒壊等氾濫想定区域



家族で事前に話し合いをしましょう



- 連絡先・方法について
- 避難場所と避難経路について
- 避難経路の危険箇所について
- 非常持出品の内容と備蓄、保管場所について
- 雨の降りかた等の危険度について
- その他、家族で確認する事項

